

小学 6 年生を対象とした思考力トレーニングとその効果に関する探索的検討（１）

ー情報を分析する力を伸ばすプログラム作りー

○ 塚原 望（早稲田大学大学院）

遠田将大（早稲田大学大学院）

【目的】

本研究では、小学 6 年生に向けた「情報を分析する力」を育てるための思考力トレーニングのプログラム作成および実践とその効果の検証を目的とする。

【方法】

対象: N 県内の私立小学校 6 年生 1 クラス 35 名（男子 16 名、女子 19 名） **時期:** 2013 年 11 月上旬から一か月。 **調査内容:** 「学習意欲と思考力に関する尺度」（発表準備中）の中から「分析的思考」に関する部分をプログラム前後で実施した。

この学級には昨年度、「関連付け」の力を伸ばすための思考力トレーニングを行っており、一定の成果が上がっている(塚原,遠田,2013)。昨年度と同様に、担任へのヒアリングを行いターゲットとなる思考力を選定した。その結果「情報を分析すること」が今回の課題として挙げられた。

【結果と考察】

全 3 回のプログラムは以下ようになった。

Table.1 トレーニングの実施内容

回	目的	内容	教材
第 1 回 11/5	①色々なデータを元に、情報が正しいかどうかを判断する。	奈良県で出土した「ナゾのかわら」を、複数の情報から分析し、出土地と作られた時代を特定するという活動。 理科と社会を複合した内容である。	『ナゾの瓦の正体を追え！』
第 2 回 11/19	①複数の情報から必要な情報を取り出す。 ②情報を根拠にして自分の意見を述べる。	奈良県にリニアモーターカーの駅が作られる際、どの市に作るか良いか考える活動。図表を正確に読み取り、自分の意見を作ることがポイント。	『ようこそリニア①』
第 3 回 11/26	①情報を根拠にして自分の意見を述べる ②情報を根拠にして二つの意見を比較する。	題材は、第 5 回から引き継がれている。今回は、生駒市と奈良市のどちらにリニアの駅を作った方がいいかを検討する活動。	『ようこそリニア②』

本プログラムでは毎回、文字情報だけでなく、図や表などの非連続型テキストも児童に提示した。

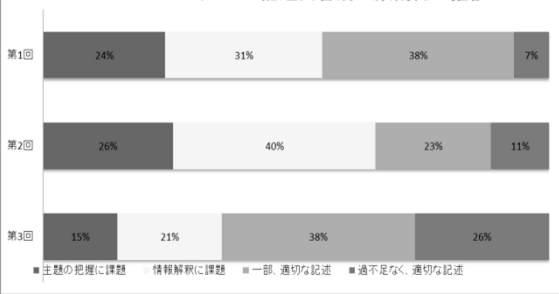
その中で第 1 回では仮説の真偽を判断し、第 2 回では分析した情報から自分の意見を作り、第 3 回では情報を元に二者の比較をするという活動を行った。効果の検証としてプログラム実施前後で「分析的思考」に関する尺度を実施し t 検定を行ない、その結果を以下にまとめた。

Table. 2 意欲的な行動2因子に関する事前事後の平均値の比較

	事前	事後	t 値
分析的思考	8.692 (2.87)	9.88 (2.93)	0.26*
	() 内は標準偏差 * p<.05		

結果として、児童らは現状を分析するために原因を探るなどの分析的思考ができるようになったものと考えられる。また全 3 回の児童のワークシートの記述を分類した結果、以下ようになった。

table.3 ワークシート記述内容別人数割合の推移



ここで扱っている記述は、児童が資料の情報を分析し、自分の考えを述べたものである。第 1 回と第 3 回を比較した結果、「一部適切な記述」「過不足なく適切な記述」をした児童の割合が増えている。以上のことから本プログラムは児童の「情報を分析する力」に一定の効果をもたらしたと考えられる。

※本研究は、奈良県との共同事業に基づき行われた。（平成 24 年度 私立学校教育における規範意識の向上事業）